

森林・林業施策の展開方向

平成26年2月
林野庁



我が国の森林(人工林)の現状

- 日本の全森林資源量は49億 m^3 (平成24年)。
人工林を中心に高齢級のものが増え、毎年8千万 m^3 が増加。
- 日本全国の年間の用材需要量は7千万 m^3 (平成23年)。
木材自給率は26.6%(平成23年)で国産材の割合が少ない。

このままでは…

- 資源が劣化し、 CO_2 の吸収能力や多面的機能が低下。
- 農山村地域の活力が低下。

解決するためには、「国産材を使う」
「山で働く人を育てる」
「森林づくりをみんなで支える」
こと等が必要。



未利用間伐材等は
毎年2,000万 m^3

国産材の供給が少ない

国産材の
用途が少ない

大部分を外材で
まかなう



少子高齢化の状態

間伐が必要

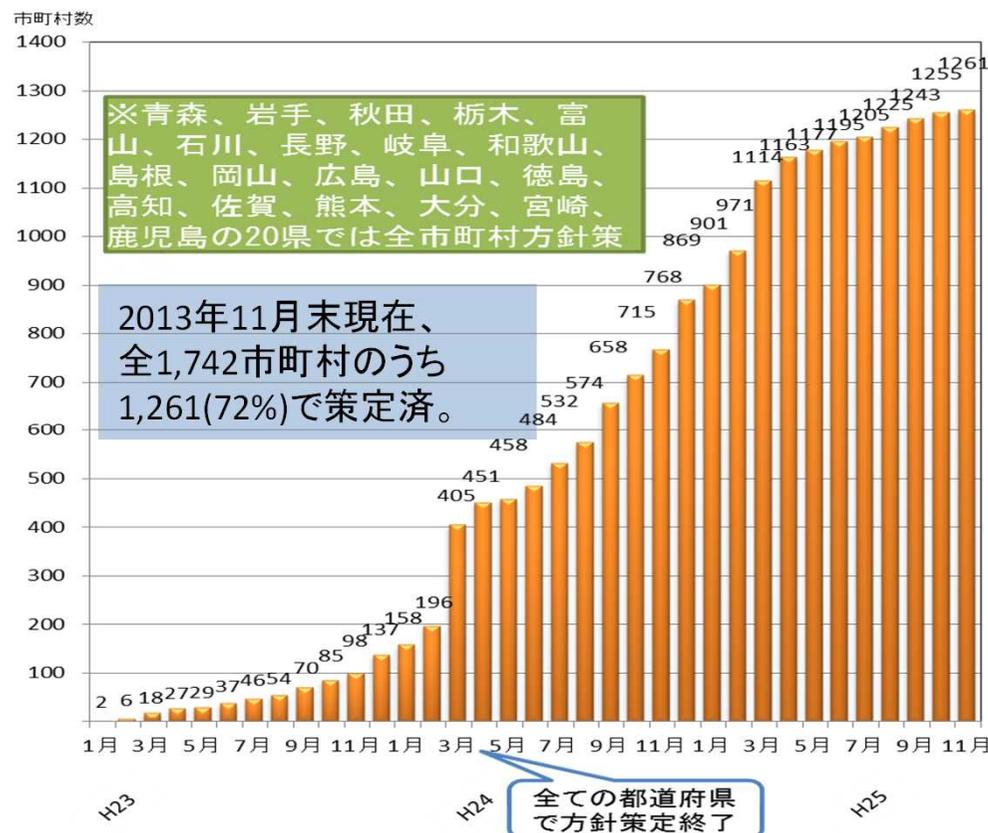
- 価格も低下
- 再造林意欲の低下

- 間伐が行われないと…
- ・土壌が失われ、土砂崩れの原因になる
 - ・ CO_2 吸収量が低下する
 - ・病虫害が発生しやすい

木材需要の創出に向けた取組①(公共建築物等木材利用促進法)

- 公共建築物等木材利用促進法(H22.5月成立、10月施行)に基づき、国の各省庁、都道府県及び市町村では、木材利用の方針を定め、公共建築物等における木材利用拡大を促進。
- 木材利用の方針については、国の全省庁、全都道府県及び全国の市町村の7割が策定済み。
- 国では、省庁間の連絡調整、木材利用促進のための措置の検討などを目的として、全省庁の営繕担当課長等を構成員とする関係省庁等連絡会議を法施行後から毎年度実施している。

方針を策定した市町村の増加状況



関係省庁等連絡会議

- ・平成22年10月26日開催
- ・平成23年12月14日開催
- ・平成24年8月27日開催



木材需要の創出に向けた取組①(公共建築物等木材利用促進法)

公共建築物における木材の利用の促進に関する基本方針

○ 国の目標

木造化

- 一 積極的に木造化を促進する公共建築物の範囲に該当する低層の公共建築物は原則としてすべて木造化を図る

木質化

- 一 高層・低層に関わらず、直接又は報道機関等を通じて間接的に国民の目に触れる機会が多いと考えられる部分を中心に、内装等の木質化を促進

備品等

- 一 机等の備品、コピー用紙等の消耗品の利用を促進

バイオマス

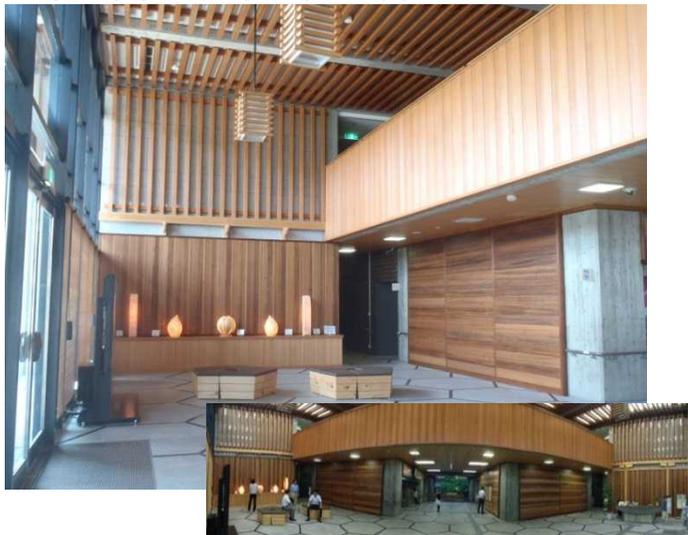
- 一 公共建築物に暖房器具やボイラーを設置する場合、木質バイオマス燃料の導入に努める

調達木材

- 一 グリーン購入法基本方針に基づき、原則として全て間伐材又は合法木材を調達

木材需要の創出に向けた取組②(公共建築物等での木材利用例)

奈良県奈良市: 奈良県庁玄関ホール



はんのう
埼玉県飯能市: 飯能市立図書館



やまが
熊本県山鹿市: 小学校



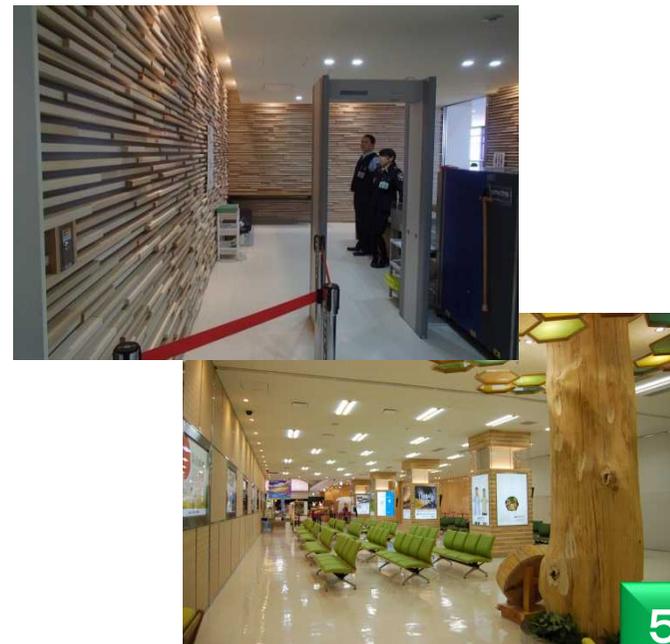
にしのおもて
鹿児島県西之表市: 病院



三重県いなべ市: 保育園



秋田県秋田市: 空港施設



木材需要の創出に向けた取組③(木づかい運動の推進)

- 国産材利用の意義を広め、需要拡大につなげていくため、平成17年度から国民運動として「木づかい運動」を展開。
 - ・ポスター等による広報活動やシンポジウム・イベントの開催、木づかい感謝状の贈呈等
 - ・「木育」の推進
 - ・間伐材製品の利用、コンクール等
- 「木づかい運動」に関するロゴマークを国産材製品やパンフ等に添付し、国産材の利用をPR。
 - ・木づかい企業・団体登録数：324社(平成25年3月末)
- 企業サイドでも、国産材マークの普及の取組、シンポジウム等の普及啓発活動を実施。



平成25年度木づかい運動ポスター



ロゴマーク
「木づかいサイクルマーク」



JAPIC
「国産材マーク」



木づかいシンポジウムの様子



木育

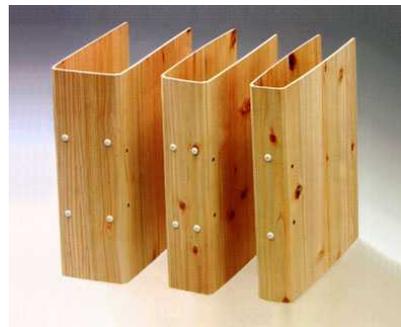
木材需要の創出に向けた取組③(木づかい運動の推進)



コピー用紙



オフィス家具



文具・ファイル



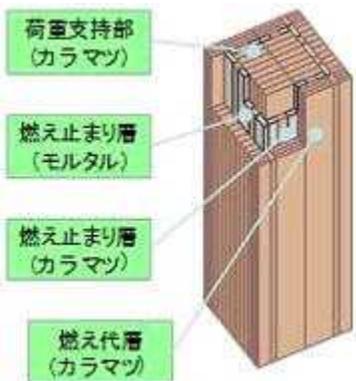
飲料容器



木づかい製品情報HP
木づかい.com

<http://www.kidukai.com/index.php>

木材需要の創出に向けた取組④(耐火部材の活用事例)



ラミナを接着剤で一体化した集成材の「加重支持部」に、耐火性能を付与するための「燃え代層」と「燃え止まり層」を表面に貼り付けた耐火集成材。

モルタルで熱を吸収しながら完全に燃焼を停止。



断熱性の高い炭化層になり、内部への燃焼進行を抑制。



耐火部材を活用した商業施設(平成25年10月末オープン)



概要(神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央6-1)

1. 建築概要
 - ・敷地面積 2,942m²
 - ・建築面積 10,874m²
 - ・構造/規模 地下1階、地上4階
(2~4階 木造、地下1階~1階 鉄筋コンクリート造(RC造))

木材需要の創出に向けた取組⑤(オリンピックにおける木材利用)



長野冬季オリンピック(1998)の
屋内スケートリンク(エム・ウェーブ)

- ・場 所: 長野市
- ・延べ面積: 112千㎡
- ・構 造: 地下1階、地上3階
(天井: 構造用集成材(カラマツ約2,800㎡使用))
- ・完 成: 1996年11月



バンクーバ冬季オリンピック(2010)の
屋内スケートリンク

- ・場 所: カナダ リッチモンド
- ・延べ面積: 34千㎡
- ・構 造: 天井: 構造用集成材
- ・完 成: 2008年12月